



今月のテーマ 『経済と地域社会の発展月間』

第1451回例会

2016年10月27日 Vol.31/No.15

■本日の例会 / 第1452回 平成28年11月10日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告……………各委員長
- 会員卓話……………生駒俊明 会員・松浦愛子 会員
- 誕生&結婚祝い報告……フェロシップ委員会

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………54名
- ・出席者 ……………42名
- ・欠席者 ……………12名
- ・出席率 ……………77.78%
- ・10/13の修正出席率…83.33%

■会長挨拶

会長 香川美穂子



こんにちは！数日前の宮日に面白い書評を見つけました。平田さんという方が書かれた「英語の帝国」という本に対しての和歌山大学の教授の書評です。少しご紹介します。帝国の支配には軍勢力よりも安価な方法がある。言語の支配である。この戦略によって英語は世界進出を遂げた。イングランドはスコットランドを侵略しその後植民地を広げて大英帝国と強大化する。支配地域には英語を公用語とし、親は我が子の出世のために英語を学ばせ母語（その国の言葉）を捨てさせた。戦後植民地の独立が続くと帝国側は対抗的な教育戦略を打ち出す。それは①英語は英語で教える②理想の英語教師は英語を母国語とする者③英語の学習は早い方が良いと。それらは植民地経験から抽出された信条で理論的根拠は無いとのこと。そしてこの教育戦略は「グローバル人材育成」の名の下に日本政府が進める英語教育改革である。こうした改革を多くの親は歓迎している。母語を捨てさせた植民地の親達の様に日本人全員が習う英語。そこに潜む世界戦略と自己植民地化の怖さ。無邪気なまでに抵抗力のない日本人。行くすえを考えさせられる秀作であると書評を結んでおられます。私はこの本を読んでおりませんが、かねがね日本の英語教育に疑問を持っておりまして、英語教育に対する私の考えを述べたいと思います。今英語を小学校低学年から取り入れようとしていますね。インターネットからの情報ですが言語中枢を司る脳を調べた結果、6歳から13歳が外国語の習得には良いとの発表があるそうです。年齢的にはその時期が良いのかもしれませんが、私は外国語よりもまず母国語をその前にきちんと習得させるべきと思っています。私

の経験からですが、同時に2ヶ国語が入ってくると混乱が起きます。母国語をまずしっかり身に付けさせておくと言語の根幹が揺らぎません。基本的な言語の構成が出来ていないと結局はどちらの言葉も不安定な文章構成となる様です。以前にやはり宮日の紙上に「約1万人の中学生を対象にした読解力のテストで、教科書をきちんと読めない子が半分位いる」と書かれていました。主語がわからない。指示代名詞が何を指しているかわからないのだそうです。要するに国語力の低下です。その様な子供に第二言語を教えてもどうなんでしょうか？勿論世界的に見て英語は共通語として最強です。英語がわからないと世界に出て行っても不利であることは事実です。発音に関しては若い時の方が敏感に音の違いを聞き分けるでしょうが、ある年齢になり母国語がマスター出来てからでも構文力や言語の理解力が第二言語の習得に役に立つと思います。また言葉はただ教科書や耳からの学びよりも行動を伴う実際の経験の方が身につきます。英語を習ったら臆せず使うことです。言葉というのは人間だけが持っているコミュニケーションの道具です。日本語には昔から「言葉」ということが言われます。言葉が持つ波動に魂があり相手に伝わるといっていいでしょう。「いろはにほへと」のいろは歌はいつ出来たのかわからない謎の様ですし、またかつては日本語の母音はアイウエオの5音ではなく8音あったとか。日本語は調べて行くととても面白い言語です。その日本語が今や崩れてきている様で嘆かわしく思います。その最たるものが人と出会った時にこの頃使われる「お疲れ様です」という言葉です。私が日本脱出をした30年前には、挨拶の言葉はその時間に応じて、人によって、お天気によって細かく使い分けられていたと思います。今は当たり前のように「お疲れ様です」という通り一遍何の意味

も感じない言葉で済まされています。日本に帰ってきてこの言葉を聞いた時には「私まだ疲れておりませんが」と言いたくなりました。その時々状況に合わせた言葉の使い分けは繊細な日本人の感覚を表す大事な表現方法だと思いますし、自然と一体化した暮らしの現れであり自然に対する想いでもあると思います。日本人としての文化です。昔から日本人は外来のものを上手に取り入れ「和をもって尊し」とする国民ですが、そこにはやはりけじめや限度があります。カタカナの言葉をむやみに使うメディア（報道機関）や国会議員連、お年寄りが「ニュース見ても何言ってるんだかさっぱりわからない」と言われるのを聞いた事があります。古い日本映画やNHKの朝のドラマで戦前の家庭で使われている会話を聞くとなぜかホッとしませんか？言葉は大事です。その人の人となりを表します。場合によってはとても危険なものともなります。心して使いたいものです。

#### ■幹事報告

副会長 田中 寿



- 地区 facebook 勉強会開催の案内  
11月27日 宮崎市会場  
吉野酒店ビル3階 13:30～
- 国際ロータリー日本事務局より  
11月のレート 102円

○宮崎県中部分区・北部分区青少年指導者養成研修会（ライラ）のご案内

29年1月28日（土）～29日（日）

コテージヒムカにて開催されますので、各クラブ4～5名の参加をよろしくお願いいたします。

○宮崎・宮崎西・宮崎中央RACの合同例会の開催案内

11月27日（日）14:30～

宮崎市青少年プラザ 体育館

#### ■宮日美展報告

社会奉仕委員会

委員長 渡邊 勝



今年も10月1日から16日まで、県立美術館において、第68回宮日総合美術展が開催されました。

写真部門では、404点の出展があり、特選6点、奨励賞10点、126点が入選されました。今回は、入賞16人のうち、14人が60歳以上と、円熟した表現が高い評価を得られたこの講評でした。

今回、宮崎中央ロータリークラブ賞は、那須誠さんが入賞されました。那須さんは、昭和25年生まれの66歳。東米良のご出身です。現在は、宮崎市内神宮にて「グローバル」という、不動産の会社を運営されています。

カメラを始められて、18年目。一昨年まで、宮日美展15年連続で入賞、入選されていたところ、昨年はまさかの落選。今年は見事、入賞トリペンジを果たされました。

#### 宮日美展受賞者卓話

那須 誠 様



皆様こんにちは。ただ今ご紹介いただきました那須 誠と申します。先日開催されました、宮日総合美術展の写真部門におきまして、貴 宮崎中央ロータリークラブ会長賞という名誉ある奨励賞をいただき誠にありがとうございました。また、本日は貴クラブの総会にお招きいただきありがとうございます。

私は写真を始めて18年になります。平成10年にNHKの写真講座に参加したのがきっかけで、すっかり写真の魅力に取りつかれてしまいました。平成16年に、その時の生徒仲間と写真クラブを立ち上げて現在は9名で写真を楽しんでいます。クラブ名は「写友 風」と言います。クラブを結成して12年目にして初めて、今年の県美展で全員入選することが出来ました。大変嬉しい出来事でした。仲間には、宮日美展と県美展で大賞を受賞した人もいます。

今回受賞しました写真は、大分県国東半島の姫島での盆踊り祭りの写真です。この盆踊りは、毎年8月14日、15日のお盆に開催され、男の子はキツネやタヌキ、女の子はお姫様の化粧をして踊るのが有名です。全国各地からたくさんのカメラマンが押し寄せる写真好きには人気の盆踊りです。姫島の人口は約2,000人だそうですが、祭り当日は観光客やお盆で帰省された方で人口が倍以上になるそうです。

この写真の女の子は、今年が祭りデビューだったのでしょうか…。緊張と不安、また化粧してもらいお姫様みたいになった喜びとが入り混じった表情でしたので、その表情が表現出来ればと思いシャッターを押しました。

この写真の女の子は、今年が祭りデビューだったのでしょうか…。緊張と不安、また化粧してもらいお姫様みたいになった喜びとが入り混じった表情でしたので、その表情が表現出来ればと思いシャッターを押しました。

#### 発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

- 事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
  - 例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30～13:30)
- 会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敬治